

中 部 N O W

公益財団法人オイスカ 愛知県支部・中部日本研修センター会報

第317号

令和3年11月号

発行:(公財)オイスカ中部日本研修センター

〒470-0328 豊田市勘八町勘八27-56

TEL 0565-42-1101 FAX 0565-42-1103

E-mail: chubu@oisca.org http://www.oisca.org/



オイスカ創立60周年記念 国際シンポジウムを開催

10月6日(水)オイスカは、創立60周年を迎えました。これを記念してオイスカ本部主催により、国際シンポジウムが国立オリンピックセンター・大ホールを会場に開催されました。東京会場には200名が参加、オンライン参加者は300名、合計500名の会員・支援者が参加しました。愛知県は、中部センターと明治用水土地改良区(杉浦正行前支部会長理事)がサテライト会場となり、オンライン含め70名以上の会員・支援者の参加がありました。(YouTubeで「オイスカ60周年」で検索するとご視聴いただけます)

内容は、「これからのオイスカの10年」と題し、10か年計画を発表。地球規模の諸課題について、どのようなアプローチで活動に取り組むか、10年後の姿がプレゼンされました。

後半はトークセッションがおこなわれ、発表者の一人にトヨタファーム代表の鋤柄雄一氏(豊田推協幹事)が登壇し、「養豚を通じたミャンマー青年の育成」について発表がありました。

最後に4200名を超えるオイスカ会員の中で50年以上会員を継続してくださっている法人・個人会員様が36あり、愛知県からは、(株)クサカ(安城推協)、石川農機(西尾推協)の2社に感謝状が贈呈されました 小杉裕一郎(筆)



中部センターサテライト会場(写真は、開会あいさつする光岡支部会長)

明治用水土地改良区のサテライト会場



コラム

会員・支援者の皆様、日頃はオイスカご支援をいただき、大変ありがとうございます。コロナ新規感染者が減少する中で、十月十七日に県の「厳重警戒措置」も解除され、ようやく明るい兆しが見えてきました。第六波に備え予防を徹底しつつ、元気に過ごしてくださいませ。さて、本年十月六日オイスカは創立六十周年を迎えました。これもひとえに法人・個人会員皆様のご理解とご協力・ご支援の賜物であり、職員一同心から感謝しております。

オイスカ本部では、六十周年を記念して国際シンポジウムを開催し、十か年計画を発表しました。昭和三十六年に設立されたオイスカも平成から令和へと時代の流れが大きく変化する中で、これから10年どのような方向に向かい、何をしていくのか。会員・支援者の皆様と共有し、時代の要請に応え、必要とされるオイスカに変化をしていく決意表明の大会となりました。地球温暖化、多発する自然災害等、地球規模の課題に対して六項目の重点活動を推進することで、課題解決につなげていくことが発表されました。

中部センターも本部十か年計画の方針のもと、啓発・農業研修・技能実習各部門で十か年計画を策定いたしました。啓発は会員数を八百件から千件を目標とし、名古屋地区、知立、豊橋・豊川に推協設立をし、「点から面」にオイスカ運動が展開できるように。農業は農業研修受け入れ枠を三名から最大七名まで拡大、研修コースを一年制から二年制へ。そのために有機農業研修の充実と健全な農場経営の両立をしていく。技能実習は、業務体制に応じて徐々に拡大、技能生五十名から会員企業の要請に応じて百名を目標に。また光岡会長が農産物ブランド化事業に着手するとし、豊田推協が勘八農場に栗・レモン苗木を三十本ずつ植樹を計画。併せて百二十本の梅園の整備管理もおこなうことになりました。

中部日本研修センターとしてもチャレンジの十年となりますが、職員一同、会員の皆様のお力添えをいただきながら、中部地区において、必要とされる研修センター運営を目指してまいります。

小杉裕一郎

KASUGAI SDGs フェス出展

10月16日(土)、春日井市の勝川駅前の新クシティパレットの1階で春日井青年会議所主催により『KASUGAI SDGs フェス』に損保インターン生2名とブースの出展をしました。オイスカはSDGs17項目の1番「貧困をなくそう」を担当し、米や海外産品の販売、募金、外国コインの仕分け体験を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、1時間70名程度の交代制での参加となり、親子連れを中心に約300名の方が来場されました。オイスカブースでも外国コインの仕分け体験が好評でした。

今回が初開催でしたが、SDGsは2030年までに掲げられた目標でもありますので、来年以降も開催されるかもしれませんので、その時も出展したいと思っています。

安東幸太郎(筆)



(株)遊都がチャリティー講演会開催



会場を盛り上げたブレジャーBのビッグ・シューズ・サーカス



バザー出展の様子。
たまごは完売しました！

10月3日(日)豊田市福祉センター大ホールにて、(株)遊都(本社豊田市、法人会員)主催によるチャリティー講演会・パフォーマンスショーが開催されました。

講師は大棟耕介氏。大棟さんは、全国の小児科病棟を訪れ、病と向き合う子供たちを笑顔にしたいとピエロに扮して笑い声を届ける活動をされています。映像を交えながら、大棟さんの病院での取り組みが紹介されました。

後半のショーは、舞台いっぱいには繰り広げられるパフォーマンスに会場は大いに沸き、盛り上がりました。オイスカはじめ、遊都が支援しているボランティア団体がロビーでバザーを出展、多くの市民の方にお買い物をいただきました。後日、都筑益恵会長から四万千五百円の寄付金をいただきました。ありがとうございました！

小杉裕一郎(筆)

海岸林再生プロジェクト研修を終えて

10月22日から25日までの3泊4日で、研修課中村と宗像に研修の機会が与えられました。「松がつなぐ明日」(愛育出版)の書籍の舞台に行くということで少し緊張していました。初日は水はけが悪く成長が思わしくない箇所、スコップで溝を掘る溝切作業。普段パソコンしか打っていない私たちは現地のボランティアの方々の体力と素早い動きに圧倒されました。どの松が豊田推協の方々が植えたものかな、なんて思いを巡らせていました。翌日は育成調査道づくりの枝切り、午後は高松北高校からの生徒さんたちを迎えて溝切再開。ぎこちなくスコップを踏み汗びっしょりで賢明な学生達を見て、様々な年代、立場の人たちがこのプロジェクトに関わっているんだと改めて感じました。最終日は広葉樹の育成調査に同行。オイスカがどうして松を植えるのか、はつきりわかりました。

名取を立つ直前に震災記念館に連れて行ってもらいました。11年前にテレビで見ただの松がよみがえり神妙な気持ちで記念館を出ると、外では澄み切った青空が広がり、整備された海岸沿いのスケートボードパークから笑い声が聞こえてきました。この松は時代をつなぎ、人の心と心をつなぎ、そのすきまにオイスカがいて、オイスカ会員の方々がそれを支援してと考えて、海を眺めながら大きく深呼吸をしました。(そうすると横にいた吉田さん(担当部長)のたばこの煙を大量に吸ってしまいました(笑))

宗像ジュイ(筆)



震災を知る130歳の松と 11歳の松(手前)

11月研修生の活動 筑田明生（筆）



フィジー研修生のライさん、ビニールハウスで播種機を使って小松菜の種を蒔きました。



白菜の定植。年末年始の出荷に合わせ定植しました。



天野真由美先生のご指導で、フィジー研修生のメレさんが天津飯の作り方を教えて頂きました。



内藤由紀恵先生に教えていただきクロワッサンも美味しく焼けました。



村田恵子先生のご指導でにより、生け花では、姫リンゴを活けました。

新入会(法人)
 藤建興業 株式会社(名古屋市中区)
 三重産業 株式会社(名古屋市中区)
 有限会社 浅野保温(丹羽郡扶桑町)
 医療法人朋寿会(名古屋市中区)

更新会員名簿(624/807)
 安城(63/75) 丸中鍛工 株式会社
 岡崎(17/30) 森田惣一
 奥三河(4/7) 榎田 まゆみ
 尾張一宮(3/5) 自由民主党愛知第十選挙区支部、大興建設 株式会社
 蒲郡(7/10) 株式会社 B・A・N、蒲郡市役所
 刈谷(31/44) シマツ 株式会社、鈴木絹男、株式会社 勤労食、カリッー 株式会社
 豊田(182/237) 奥田工業 株式会社、中村浩之、岩男ひろ子、若山佳介、豊田汽缶株式会社、小笠原浩明、安藤則義
 名古屋(45/69) 学校法人 聖英学園、おのみ焼三五
 名古屋北(18/17) 田中一成
 名古屋南(17/14) 井口貴嗣
 丹羽(49/57) 大前温子
 西尾(26/39) 加藤周子、やまと旅館、每味水産 株式会社
 碧南高浜(47/58) 中村さと子、柳原純一
 税理士事務所、森田英治、株式会社 磯貝コンサルティング、植松敏樹、岩月 裕、杉浦哲也
 みよし(41/44) 小嶋 潔、有限会社 出原新聞店
 センター(28/44) 高野修滋、鈴木良子、森 文典、萩原長治、佐藤一志、吉村淳子、永井祥一
 三重(20/23) 種村佳知
 (9月末までの入金を掲載)

新入会（個人）

小笠原浩明（豊田市）

寄付金

大嶋雅樹（豊田市）

筑田夏菜子（豊田市）

水野宏幸（豊田市）

リネットジャパングループ 株式会社（大府市）

菜園会（豊田市）

株式会社 ヤマワ（各務原市）

株式会社 遊都（豊田市）

和合精機 株式会社（豊田市）

鋤柄雄一（豊田市）

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社（岡崎市）

寄付品

刈谷市民ボランティア活動センター（刈谷市）

鎌田隆（香川県丸亀市）

株式会社三井酢店知多郡阿久比町

明保澄雄（岡崎市）

原田彩衣（名古屋市中）

株式会社 山信商店（豊田市）

野中慎吾（豊田市）

鈴木康予（豊田市）

佐藤美智代（豊田市）

鈴木哲夫（知立市）

廣瀬敏重（名古屋市中）

インクカートリッジ

刈谷市民ボランティア活動センター（刈谷市）

豊田産業文化センター（豊田市）

酒向淳治（豊田市）

オイスカが積み上げた信頼と実績 佐藤 銀弘

世界をまたぐ時代への架け橋

私の貧相な書架の中に「死ぬまでに絶対行きたい世界の旅」という一冊があります。これは著者が40年間で130ヶ国以上を巡った中から300ヶ所を紹介したものです。このうち、小生の旅の思い出にのみがえるのは10ヶ所を超える程度でしょうか。しかし私の旅の特徴は、同一の場所に複数回赴いたということでしょう。

その中で最も印象的なのは初めて遭遇した砂の大海、内モンゴルのアラシヤンの砂漠との出会いでしょうか。時あたかも、黄砂が日本の青い空を奪っています。その黄砂はここからジェット気流に乗って旅して来るのです。地球の4分の一は砂漠とされ、今を年間6万平方kmが砂漠の攻撃に甘んじています。

『誰かがやらねば！』オイスカ内モンゴルの富樫所長は砂漠化防止のため失われたグリーンベルトの雄出に人生をかけています。孤軍奮闘の彼の力になりたい、また前年度の植林をこの目で確かめたい。そうした気持ちで6回に

も及んだこの地への旅の支えとなり、ともに汗した現地の人々との再会は楽しみで

す。しかし残念ながら日中の政治の悪化が影響し一時休止。現在は中央アジアのウズベキスタンに拠点が移っています。

ウズベキスタンはかつてシルクロードの要衝であり、イスラム世界の歴史的建造物は青の都と呼ばれています。また大戦後、日本人抑留者の勤勉性は、この地の堅牢なナポイ劇場と建てました。その感謝の念が今なお継承される親日国家は情操も高い素晴らしい国です。基幹産業である綿花栽培は、アラル海の大湖水を枯渇させましたが、そんな苦い体験を持つこの国へのタラップを何度となく駆け下りました。

世界有数の象の居住地、タイのスリン、も、仏教国のスリランカへも複数回赴きました。山奥の小学校に子供たちと植えた果実樹は、今では甘美な贈り物を生み、日・ス友好の懸け橋となっています。そして旅の思い出のハイライトは、この3

0年間で200回展開された東名LCCのフリーピンでの足跡です。小生の参加も2桁を数えますが、前林、上郷、末野原の中学校から参加してくれた生徒は200名ほど。現地に記された各中学の森は、この国の空と海を背景に光り輝いています。子供たちの澄んだ瞳、屈託のない笑顔そして別離の空港での涙と芽生えた友情は、次世代への平和の証としていつまでも生き続けるでしょう。

最後に世界に観光地は数あれど前記のそれぞれは辺境地にあります。私たちが未開の地に踏み込めるのは、永年現地への支援と交流を通じた信頼と実績を積み上げたNGO「オイスカ」のおかげであり、その存在は忘れてはなりません。

さとう・としひろ

佐藤園芸主、1943年生まれ、豊田市

鷺嶋町西屋敷。オイスカ友の会代表。

豊田東名ライオンズクラブ元会長、豊田

市立上郷中学校 末野原中学校PTA元

会長。人生の振り返りに精励中。

この文章は2021年5月28日「矢作新報」に記載された記事をそのまま記載しました。